

織物のまちを元気に！  
『丹後テキスタイル』を世界に発信

平成20・21年度 採択事業



田茂井勇人さん（左）と副代表で民谷螺鈿の民谷共路さん

## “ちりめんの里”の衰退に危機感

京都府北部の丹後地域は、国内トップレベルの織物の産地です。基幹産業として根付いたのは江戸時代のこと。享保5（1720）年、西陣より持ち帰った技術をもとに創織したちりめんが、現在の「丹後ちりめん」の始まりです。今では日本で生産される白生地60%以上を占め、“ちりめん”といえば、丹後を想起させるほど、国内でのブランド力は絶大です。

しかし、最盛期の昭和48（1973）年には、約1000万反の生産量を誇った丹後の織物業も、和装需要の低迷などにより近年の生産量は最盛期の5%程度に減少。1万社近くあった関連企業も7分の1ほどに減ったといえます。衰退の一途をたどる織物産業に危機感をもち、立ち上がったのが丹後の織物製造に携わる次代の担い手たち。「なんとか丹後の織物産業に勢いをつけ、活性化を図りたい」という若手の事業者の中から、海外市場の開拓に取り組もうという有志が集まり、平成20（2008）年10月「丹後シルク有限責任事業組合（以下LLP）」を立ち上げました。



パリで開催された展示会の様子

## 丹後の生き残りを賭けてLLP設立

LLP設立の主な目的は、丹後の生地を洋装の高級テキスタイル（織物）素材として、フランス・パリの有名メゾンに売り込むこと。丹後ちりめんの織元田勇機業株式会社の代表取締役で、同LLPの代表を務める田茂井勇人さんは、「数年前うちの生地がヨーロッパの有名ブランドで使われたんです。国内では“丹後ちりめん＝和装”のイメージが強いですが、外国の人は先入観がない所為か、着物用の小幅を洋装にうまく生かしてあり非常に新鮮でしたね」。このことが海外に活路を求める一つのきっかけになっているといいます。平成17（2005）年に丹後ちりめんが中小企業の「JAPANブランド育成支援事業」に認定されたのを契機に、“丹後テキスタイル”の海外普及への取り組みが本格化しました。メンバーは、丹後の織りや染めの伝統技術を支える30～40代中心の事業者5名。織物製造の企業を守る経営者

## 伝統製品の活用

や、貝殻を織り込んだ「螺鈿織り」、藤ツルの繊維で織った「藤布」など、特殊な技術を持つ作家たちで構成されています。「特徴や技法の違う5社が結集し、連携しながら事業を展開すれば多様な受注に対応できると思ったからです」と田茂井さん。一企業ではなく、「丹後シルクLLP」として取り組むことで、“丹後”を高級テキスタイル素材の産地として世界に発信することが最大の目的です。



パリ三越エトワールでの完成品展

## 丹後テキスタイルを世界に発信

田茂井さんたちは、これまで海外で年1回行われるJAPANブランドの展示会に出展し、販路開拓に取り組んできました。しかし、安定した継続取引まで至らなかったといいます。「最初のうちは日本文化を紹介するだけで、なかなか商談まで進まなかった。言葉の問題があってコミュニケーションが大変でした」と田茂井さんは振り返ります。しかし、丹後ちりめんや藤織り、螺鈿織り、漆染めなど、その品質や技術力の高さは現地の大手メゾンからも絶賛され、丹後テキスタイルの素材としての希少価値を確認。世界に胸を張れるオンリーワンの技術だという自信がもてたといいます。そして、価格の高さや、生地の幅が着物用の小幅（35～38cm）であることなど、汎用性において課題を残しました。その反省を踏まえ、翌年の展示会では流行色や海外で好まれる色を取り入れたり、洋服素材に適した広幅生地（120cm）を開発するなど、市場に合った商



平成22年にオープンした銀座三越 JAPANEDITION

品づくりに着手。また、現地コーディネーターとしてフランス市場に独自の顧客リストを持つ専門家を招聘しました。

## 継続的な取り組みで大手ブランドに採用

パリでの拠点づくりのためには、継続したPR活動が必要であるとファンドに応募。平成20（2008）年度・21（2009）年度と2年連続で助成を受けて、さらなる販促活動を展開します。

20（2008）年度の中心事業は、パリの大手メゾンとの取引を目標とした展示会の開催。平成21（2009）年1月にはパリで行われたJAPANブランドの展示会に出展、同3月にはLLP単独の展示会を開催しました。この展示会に向け、さまざまな丹後シルクの素材をミックスして製作した「丹後ホワイト」というウエディングドレスを開発、展示の目玉にしました。そして、展示会には世界的高級プレタポルトやオートクチュールなど126業者が来場しました。

21（2009）年度には、販売力の強化を図るため、丹後テキスタイルのWebサイトを開設。日本語・英語の2ヶ国語表示とし、LLPメンバー企業の紹介や、織物技術の紹介など、丹後テキスタイルに関する情報を集約しました。24時間・365日、世界のどこからでも入場してもらえる「バーチャル展示会」の開設によって、リアル展示会の補完や新たな顧客開拓にも貢献。今後、オンラインショップも開設やWebサイトの強化が期待されます。

JAPANブランド認定から約5年にわたる継続的な取り組みが功を奏し、フランスの大手ブランドで採用されるなど、確かな手応えを掴みました。こうした海外での実績が国内でも強い訴求力をもち、国内の展示会でも丹後テキスタイルをアピールする機会が増加。平成22（2010）年9月には銀座三越にJAPANEDITIONの売場が開設され、丹後テキスタイルの商品が店頭を飾っています。また、地域にも刺激を与え、次年度に向けてLLPへの参加を希望する若手事業承継者も増えているといいます。

国内外での「丹後テキスタイル」ブランドの地位確立とともに、丹後地域の活性化に向けて着実に前進しています。

### 事業概要

丹後シルク 有限責任事業組合

<http://www.tango-silk.com/>

代表：田茂井 勇人

業種：丹後テキスタイルの販路開拓業務

創業：平成20（2008）年 設立：平成20（2008）年  
住所：〒629-2263

京都府与謝郡与謝野町弓木 493 山藤織物工場内  
TEL：0772-46-2031 FAX：0772-46-4394